

総合工学委員会
原子力安全に関する分科会（第24期・第5回） 議事録

1. 日 時 平成30年9月4日（火）15:00～16:00

2. 場 所 日本学術会議5階 5-C(1) 会議室

3. 出席者（敬称略）

【委員】 矢川元基、柘植綾夫、佐倉統、関村直人、成合英樹、松岡猛、森口祐一、山地憲治、
野口和彦

【事務局】 柳原情子

4. 配布資料

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 資料1 | 前回議事録（案） |
| 資料2 | 福島第一原発事故調査に関する小委員会活動報告 |
| 資料3 | 研究用原子炉の在り方検討小委員会 提言 |
| 資料4-1 | 原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会 名簿 |
| 資料4-2 | 原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会 議事録 |
| 資料5 | 「原子力総合シンポジウム2018」プログラム |

5. 議 事

1) 前回議事録の確認

- ・第2回（メール審議）、第3回、第4回（メール審議）の議事録が、本会合にて承認された。

2) 小委員会からの報告

(1) 福島第一原発事故調査に関する小委員会活動報告

- ・資料2を用いて、松岡委員長より小委員会の第1回から第4回までの活動が報告された。
- ・「わが国の原子力発電所の津波対策 ―東京電力福島第一原子力発電所事故前の津波対応から得られた課題―」の最終報告案が完成した旨の報告がなされた。
- ・最終報告案のレビュー担当として、大倉委員、山地委員、野口委員が指名され、分科会欠席の大倉委員には、矢川委員長より依頼を行うこととなった。（山地委員、野口委員は決定）
- ・最終報告案のレビューは、9月末までに実施し、その後の小委員会へのフィードバックを含めた対応は、矢川委員長に一任することとした。

(2) 研究用原子炉の在り方検討小委員会 提言 報告

- ・資料3に関して、矢川委員長より、8月16日に公表されたことが報告された。
- ・公表後、新聞社より問い合わせがあり、柴田委員が対応した旨の報告があった。
- ・関村委員より、JAEAの研究炉の重要性に関して、東京大学、京都大学、近畿大学、東京都市大

学の4大学共同で、文部科学省大臣に提言がなされ、その際資料3の提言が添付された旨の報告がなされた。

(3) 原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会報告

- ・資料4を用いて、森口委員より小委員会とWGについて報告された。
- ・委員につて、小委員会に五十嵐委員が追加され、WGに海洋に関するメンバーがいないために、植松委員に推薦して頂くことになった。
- ・放射線・放射能測定データアーカイブズワーキンググループの議論
メタデータベースでは、コンタクトアドレスを表示して連絡を仲介する。
メタデータベースに「信頼度」の項目をいれており、判断した結果を記入する。
メタデータベースは、日英両語とする。
- ・事故と環境情報の交流ワーキンググループ
WGの成果の公開は、日本原子力学会のFP挙動連絡会の活動とリンクしたい
環境挙動については、大気放出を中心に検討している。海洋放出については具体的なプラントにおける挙動との関連性を抑える事が難しい。
初期の海水に関するデータや資料も存在する。
資料の散逸防止も重要な課題である・
- ・資料アーカイブも重要な課題で有り、データアーカイブズワーキングの所掌とするか、新たなWGを立ち上げる。

3) 今後の進め方に関する議論

(1) 原子力総合シンポジウム2018

- ・資料5を用いて、山地委員より報告があった。
- ・シンポジウムのポスターは、登壇者は役職を省き所属だけで表記する。
- ・テーマⅡの司会を柘植委員が担当する。
- ・テーマⅠとⅡを合わせて、「社会の安全と原子力」という概念で包括できるのではないか
- ・シンポジウムの内容を「学術の動向」に掲載するように編集員会に提言を行う（担当：柘植副委員長と大倉委員）
- ・編集委員会で掲載を承認された場合は、登壇者に投稿をお願いする旨、テーマⅠは森口委員が、テーマⅡは山地委員が、登壇者に依頼を行う。

4) その他

(1) 次回日程

2018年10月22日 10時～12時

以上